

仙台市立作並小学校いじめ防止基本方針

平成29年4月版

1 目的

いじめは、いじめを受けた児童生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがあるものである。

仙台市立作並小学校（以下「本校」という。）においては、これまでも、いじめは決して許されない行為であるとの認識のもと、いじめの防止と対策などにあたってきたところである。

このたび、いじめ防止推進対策法（平成25年法律第71号。以下「法」という。）の施行を受けて、本校においては、法第13条の規定に基づき、「仙台市いじめ防止基本方針」（以下「市基本方針」という。）を踏まえて、いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針として、「仙台市立作並小学校いじめ防止基本方針」をここに策定する。

2 基本的な考え方

(1) いじめの防止等の対策に関する基本理念

本校においては、法第3条に規定されている基本理念を踏まえ、いじめの防止等の対策に、教職員一丸となって取り組んでいく。

<いじめの防止等に関する基本理念>（法第3条より）

- いじめの防止等のための対策は、いじめが全ての児童等に関する問題であることに鑑み、児童等が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わずいじめが行われなくなるようにすることを旨として行われなければならない。
- いじめの防止等のための対策は、全ての児童等がいじめを行わず、及び他の児童等に対して行われるいじめを認識しながらこれを放置することがないようにするため、いじめが児童等の心身に及ぼす影響その他のいじめの問題に関する児童等の理解を深めることを旨として行われなければならない。
- いじめの防止等のための対策は、いじめを受けた児童等の生命及び心身を保護することが特に重要であることを認識しつつ、国、地方公共団体、学校、地域住民、家庭その他の関係者の連携の下、いじめの問題を克服することを目指して行われなければならない。

(2) いじめの定義等

<いじめの定義>（法第2条より）

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

上記のいじめの定義を踏まえ、いじめはどの子供にも、どの学校でも起こりうるものである、との認識をもって、対応にあたる。

(3) いじめの防止等に関する基本的な考え方

本校においては、市基本方針に基づきながら、「いじめのない作並小学校」を目指して、特に次のようなことに留意して、いじめの防止等のために全職員が一丸となって、家庭や地域、関係機関等との連携のもと、取り組むものとする。

①いじめの防止

いじめのない学校づくりの基盤となるものは、児童一人一人が、いのちの大切さを学び、他を思いやる心を持ち、「いじめは絶対許されない」という認識をもつことが必要である。そのために本校では特に、「道徳」や「総合的な学習の時間」を中心に学校教育活動全体を通して計画的に指導を行うとともに、いじめの問題を児童自身が深く考える機会を設けることや、児童のいじめをなくそうとする思いや行動を支援していくことと考える。

学校だより等によって、いじめの問題についての保護者・地域の方々へ広報に努めながら、学校との共通認識のもと、連携して、いじめの防止等に取り組んでいく。

また、教職員一人一人が、インターネット等によるいじめや障害のある児童がいじめの当事者である場合などを含めて、いじめの問題の特性を十分理解した上で、適切に対処できるよう、計画的な研修を実施し、教職員の資質の向上を図る。

②いじめの早期発見

「いじめはどの学校でも、どの児童にも起こりうるもの」との認識のもと、全教職員が児童の日常的な観察を丁寧に行い、いじめの兆候やサインを見逃さないように努める。

さらには、日頃から、児童や保護者が相談しやすい体制をつくり、その積極的な周知を図るとともに、「いじめの実態把握調査」の他、本校独自の「いじめ・不登校チェックシート」「生活目標の反省」の活用や全学年での面談による教育相談などを計画的に実施し、いじめの早期発見にあたる。

また、いじめ発見のための情報の集約化や組織的な把握のための校内体制づくりを行っていく。

③いじめへの対処

いじめの発見・通報を受けた場合には、特定の教職員のみで対応せず、教育相談担当教諭、生徒指導担当教諭、教頭を通じて校長へ報告し、学校対策委員会による情報共有のもと、学校としての組織的な対応を行う。

いじめられた児童及びいじめた児童への対応は、特に次に掲げる点に留意しながら、個別・丁寧な指導を行うとともに、双方の保護者にも十分説明のうえ、適切な連携を図る。

なお、いじめが一旦解決したと思われる場合でも、いじめが教職員の見えないところで続いたり、解決はしたが、児童の心のケアが必要なケースもあつたりすると考えられることから、注意して継続的に見守り、必要な対応・指導を行うこと、さらには、進級などによる引継ぎも適切に行っていく。

○いじめられた児童に対しては、必ず守り通すという姿勢を明確にして、児童の心の安定を図りながら対応することを基本とする。

○いじめた児童には、いじめられた児童の苦痛を理解させ、いじめが人間として行ってはいけない行為であることが自覚できるように指導する。指導を行う中で、いじめに至った背景や心理状況

を解明するように努める。

④家庭や地域との連携

いじめをなくしていくためには、学校内外における取組が必要であり、いじめの問題に関する共通理解のもと、家庭や地域との緊密な連携が不可欠である。

また、いじめの早期発見・迅速な対応という趣旨のみでなく、児童の生命を大切にする心、他者を思いやり、協力する態度を育むうえからも、本校の故郷復校プロジェクトによる取組・実施にも取り組んでいく。

⑤関係機関との連携

いじめの防止や早期発見などのためには、地域の関係施設・関係機関との連携が重要である。

特に本校においては、広陵中学校区地域ぐるみ青少年健全育成連絡協議会を中心に、熊ヶ根交番や宮城西市民センターなどとの協力・連携体制をとって、取組を進めていく。

3 いじめの防止等の対策の内容

(1) いじめの防止等の対策のための組織

① 作並小学校いじめ防止等対策委員会 (いじめの防止等の対策のための組織)

本校においては、法第22条に基づき、いじめの防止等に関する取組を実効的に行うため、「作並小学校いじめ防止等対策委員会」(以下「本校対策委員会」という。)を設置する。

委員会の構成は、基本的に、校長、教頭、教務主任、生徒指導担当教諭、教育相談担当教諭、いじめ防止担当教諭、養護教諭、スクールカウンセラーによるものとし、具体的には、校長が状況に応じて、毎年度、委員を任命する。

なお、内容や案件によって、校長は、他の必要な教職員や学校関係者等の出席を求めることができる。

本校対策委員会の所掌事項は次のとおりとする。

ア 学校基本方針に基づく実施計画、マニュアル、チェックリスト等の作成又は承認

イ いじめの防止等の対策のための各年度の取組の企画・実施又は承認、実施結果の点検・評価

ウ いじめの相談体制や情報共有体制に関する各年度の体制の確認

エ いじめの事案が発生した場合の対処(事実関係調査、対応や指導等の方針決定など)

オ その他いじめの防止等に関する重要事項

②作並小学校いじめ調査委員会(いじめの重大事態発生の場合の調査組織)

法第28条第1項に定めるいじめの重大事態が発生し、市教育委員会より、学校が主体となった調査を行うように指示があった場合には、校長は、「作並小学校いじめ防止等対策委員会」を母体にし、学校評議員、PTA役員、学校医などの学校以外の委員を加えるなど、公平性・中立性の確保に努めた構成により、「作並小学校いじめ調査委員会」を設置して調査を行う。

具体的には、予め校長が「作並小学校いじめ調査委員会設置要項」を定めて置き、対象事案が発生した場合には、委員を任命し、迅速に対応する。

(2)いじめの防止等に関する取組

① いじめの防止

- いじめについて児童自らが深く考える機会とすることを目的として、5月と11月の「いじめ防止『きずな』キャンペーン」期間中の自主的な取組について、児童会による活動を促し支援する。
- 児童がいじめに向かわない心や態度の育成のために、「いのちを大切にし、お互いの人格を尊重すること」を目標として、主に「道徳」や「総合的な学習の時間」などを活用して、学校全体で取り組む。

なお、実施に当たっては、各学年の年間指導計画を策定し、計画的に取り組む。

- いのちの尊さ、いじめの理解を促すため、いのち・人権を考える作文づくり週間を設ける。また、法務局による人権教室や「子供の人権SOSミニレター」を活用する。
- いじめ問題に関する啓発と対応への連携のため、いじめの防止等に関する学校の取組状況などについて、学校だより等を通じて保護者や地域の方々へ広報する。
- いじめの防止等の対策に係る教職員の資質の向上を図るため、市教育委員会主催等の会議及び研修会に積極的参加するとともに、学校対策委員会の主催により校内研修を行う。

なお、実施に当たっては、本校におけるいじめの現状に対応した内容を企画のうえ、年度当初に年間計画を作成することを基本として実施する。

② いじめの早期発見

- いじめの相談は全教員により対応するものとするが、相談体制としては、特に次に掲げるものを基本とする。具体的には、毎年度、校長が学校の状況を踏まえて決定し、児童・保護者等に周知を図る。
 - ・児童からの相談：担任、副担任、教護教諭、スクールカウンセラー、生徒指導担当教諭
 - ・保護者・地域住民からの相談：教頭、教育相談担当教諭、生徒指導担当教諭、担任など
- 市教委実施のいじめ実態把握調査に加え、全児童対象の本校独自のアンケート調査を生活目標の振り返りと関連させて定期的実施する。
- いじめを含む学校生活上の不安や課題などを把握するため、夏休み期間中及び12月に児童及び保護者との面談を実施する。
- 本校設置の「やまびこボックス」により、児童一人一人がもつ願いや課題をつかみ、いじめにかかわる内容に対応する。
- いじめの情報を把握した場合の情報の集約化、いじめの発見・把握のための注意事項など、いじめの把握・管理に係る校内体制の整備を行う。

具体的には、「作並小学校いじめ発見・把握のためのチェックリスト表」を全教職員が共有する。

いじめ発見・把握のためのチェックリスト

いじめが起こりやすい・起こっている集団

- 朝、いつも誰かの机が曲がっている。
- 朝、いつも誰かの机が曲がっている。
- 掲示物が破れていたり、落書きがあつたりする。
- 班にすると、机と机に隙間がある。
- グループの中で絶えず周りの様子をうかがう子どもがいる。
- 自分たちのグループだけでまとまり、他を寄せ付けない雰囲気がある。
- 些細なことで冷やかしたりするグループがある。
- 授業中、教員に見えないように遊びを行っている。
- 教職員がいないと掃除がきちんとできない。
- グループ分けをすると、特定の子が残る。
- 特定の子どもの気を遣っている雰囲気がある。

いじめられている子

1 表情・態度

- 笑顔がなく沈んでいる。
- 視線をそらし、合わそうとしない。
- 表情がさえず、ふさぎ込んで元気がない。
- 感情の起伏が激しい。
- ぼんやりとしていることが多い。
- わざとらしくはしゃいでいる。
- 周りの様子を気にし、おずおずとしている。
- いつも一人ぼっちである。

2 身体・服装

- 体に原因が不明の傷などがある。
- 顔色が悪く、活気がない。
- 寝不足等で顔がむくんでいる。
- シャツやズボンが汚れたり、破けたりしている。
- けがの原因をあいまいにする。
- 登校時に、体の不調を訴える。
- ボタンが取れていたり、ポケットが破けたりしている。
- 服に靴の跡がついている。

3 持ち物・金銭

- かばんや筆箱等が隠される。
- 机や椅子が傷つけられたり、落書きされたりする。
- 作品や掲示物にいたずらされる。
- 靴や上履きが隠されたり、いたずらされたりする。
- ノートや教科書に落書きがある。
- 必要以上のお金を持っている。

4 言葉・行動

- 他の子どもから、言葉掛けを全くされていない。
- いつもぼつんと一人でいたり、泣いたりする。
- 登校を渋ったり、忘れ物が急になつたりする。
- 職員室や保健室付近でうろうろしている。
- すぐに保健室に行きたがる。
- 通常の通学路を通らずに下校する。
- 教室にいつも遅れて入ってくる。
- いつも人の嫌がる仕事をしている。
- 家から金品を持ち出す。

5 遊び・友人関係

- いつも遊びの中に入れない。
- 付き合い友だちが急に変わったり、教師が友だちのことを聞くと嫌がったりする。
- 笑われたり冷やかされたりする。
- 特定のグループと常に行動を共にする。
- よくけんかが起こる。
- 友だちから不快に思う呼び方をされている。
- グループで行う作業の仲間に入れてもらえない。
- プロレスごっこ等にいつも参加させられている。
- 他の人の持ち物を持たせられたり、使い走りをさせられたりする。

6 教師との関係

- 教師と視線を合わせなくなる。
- 教師とのかかわろうとしない、避けようとする。
- 教師との会話を避けるようになる。

いじめている子

- 多くのストレスを抱えている。
- あからさまに、教職員の機嫌をとる。
- 教職員によって態度をかえる。
- グループで行動し、他の子どもに指示を出す。
- 活発に行動するが、他の子どもにきつい言葉をつかう。
- 家や学校で悪者扱いをされていると思っている。
- 特定に子どもにのみ、強い仲間意識をもつ。
- 教職員の指導を素直に受け入れない。
- 他の子どもに対して、威嚇する表情をする。

③ いじめへの対処

- 事実確認の調査、その後の対応、改善指導など、本校としてのいじめに対する対処にあたっては、「見て分かる いじめ防止マニュアル」（P 19～P 32 参照）や「子供の不安・変化を見逃さないための生徒指導ハンドブック」をもとに、個々の事案の内容を踏まえて、学校対策委員会を中心に、適切に対応する。
- いじめの問題に関する指導記録を作成のうえ、進級にあたっての校内での情報共有を図るとともに、転校や進学にあたっては、個人情報にも留意しながら、適切な引継ぎに努める。

④ 地域や家庭との連携

- P T Aとの共催により、いじめの理解・啓発に関する取組や研修会を実施する。特に、インターネットやメール等を利用したいじめ防止に関するものを重点課題として進める。
具体的には、毎年度、P T Aとの協議により、実施要項を定め、計画的に実施する。
- 学校基本方針や基本方針に基づく実施状況等を、学校ホームページや学校だよりにより、保護者、地域の方々へ周知する。
- 本校の「児童生徒による故郷復興プロジェクト」において、「自分たちが地域のためにできること」をテーマに、児童による地域へのボランティア活動、児童と地域の方々とが交流する内容を取り入れて実施する。
具体的には、毎年度の故郷復興プロジェクトにおいて、企画・実施する。

⑤ 関係機関との連携

- いじめを含めた児童の非行や問題行動などの未然防止、早期発見を図るため、地域における青少年健全育成事業などを、広陵中学校区青少年育成会をはじめ地域団体、地域の関係機関との協働により取り組む。

(3) 重大事態への対処

① 重大事態の意味

いじめの重大事態については、法第28条第1項に、次に掲げる場合として、規定がある。

- ① いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。
- ② いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。

また、この場合の例として、

- 児童生徒が自殺を企図した場合
- 身体に重大な傷害を負った場合
- 金品等に重大な被害を被った場合
- 精神性の疾患を発症した場合 などが考えられる。

② 重大事態の発生と調査

重大事態が発生した場合には、直ちに、市教育委員会に報告する。

法第28条1項によれば、重大事態が発生した場合には、学校が主体となって調査を行う場合と、

学校の設置者として市教育委員会が主体となって調査を行う場合等が考えられ、その判断は市教育委員会が行うこととなっている。

したがって、市教育委員会からの指示により、学校が主体となって調査を行う場合は、校長が「**学校いじめ調査委員会**」を設置して、適切に取り組む。また、市教育委員会が主体となって調査を行う場合には、その調査に協力する。

参考＜重大事態の調査主体と調査組織＞ 市基本方針より

(a)学校が主体となって調査を行う場合

[対象事案]

- いじめにより、当該学校に在籍する児童生徒の心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認める場合
- いじめにより、当該学校に在籍する児童生徒が相当の期間を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき

[調査組織]

学校に設置の「学校いじめ防止等対策委員会」を母体として、学校評議員、PTA役員、学校医などの学校以外の委員を加えるなど、公平性・中立性の確保に努めた構成により、学校長が調査組織である「学校いじめ調査委員会」を設置する。

(b)学校の設置者が主体となって調査を行う場合

[対象事案]

- 学校が主体となって調査を行う場合以外の事案
- ただし、従前の経緯や事案の特性、いじめられた児童生徒又は保護者の訴えなどを踏まえ、学校主体の調査では、重大事態への対処及び同種の事態の発生の防止に必ずしも十分な結果を得られないと市教育委員会が判断する場合には、学校の設置者が主体となって調査を行うものとする。

[調査組織]

専門的な知識及び経験を有する第三者による構成によって、条例によりあらかじめ設置されている市教育委員会の附属期間を調査組織とする。

③ 調査結果の提供及び報告

学校は、「学校いじめ調査委員会」の調査結果を受けて、調査により明らかになった事実関係や再発防止策について、いじめを受けた児童やその保護者に対して、適時・適切な方法で説明を行う。

なお、これらの情報の提供にあたっては、他の児童のプライバシー保護に配慮することなど、関係者の個人情報に十分配慮し、適切に提供するものとする。

また、調査結果については、学校が市教育委員会に報告し、市教育委員会が市長に報告する。

4 その他の重要事項

(1)本基本方針は本校ホームページ等で常時公表する。

本基本方針に基づき実施した前年度の実施結果については、自己点検・評価を行い、学校評議員、PTA役員から意見をいただき、必要に応じて、今後の事業見直しの検討を行い、その結果を報告する。また、その中で、本基本方針の見直しに関する意見があった場合には、広く意見を伺い、十分に

検討したうえで、必要な見直しを行う。

(2) ネット上のいじめへの対応

インターネットの特殊性による危険を十分に理解した上で、ネット上のトラブルについて最新の動向を把握し、情報モラルに関する指導力の向上に努める必要がある。

ネット上のいじめとは、以下のとおりとする。

パソコンや携帯電話・スマートフォンを利用して、特定の子どもの悪口や誹謗中傷等をインターネット上のWebサイトの掲示板などに書き込んだり、メールを送ったりするなどの方法により、いじめを行うもの

未然防止には、パソコンや携帯電話、スマートフォン等を第一義的に管理する保護者と連携した取組を行う必要がある。

「ネット上のいじめ」を発見した場合は、書き込みや画像の削除等、迅速な対応を図るとともに、人権侵害や犯罪、法律違反など、事案によっては、警察等の専門的な期間と連携して対応していくことが必要である。